

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	・地域密着を考慮した理念作りに取り組んでいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	・地域密着を考慮した理念作りに取り組んでいきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	・ご家族の方にもなるべく多く参加して頂けるように努力してきたい
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	・今後、まず利用者と職員が地域交流や地域貢献できる機会を増やし、グループホーム小松原を知ってもらうことから始めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	ふれあい祭や、地域の夏祭りに参加している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・運営推進会議や職員会議等で地域に貢献できることはないか話あっている	○	ホームで育てた花を、地域のバス停や公民館に飾る 地域の公園の掃除を計画している。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員、自己評価、外部評価の意義を理解し、改善に取り組んでいる	○	・少しでも利用者の方が安心して過ごせる空間作りに努め、職員の質を高められるよう取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議の議題として取り上げ、参加メンバーに自己評価、外部評価の意義等説明、報告を行っている。	○	・今後報告だけでなく、話し合いを行い、サービス向上にいかしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・不明な点や、分からないことある場合、電話で相談したりしている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・運営推進会議の議題として取り上げ、社会福祉協議会職員等に話しをしてもらい、家族、職員が共通理解出来るよう努めている。 また権利擁護に関する研修などに参加する機会をもうけている。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待等ないよう職員同士で注意合ってケアに臨んでいるが、関連法について詳しく学んでいない。	○	・高齢者虐待防止関連法についての研修参加の機会を設けていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約は十分に説明行い、家族、利用者が納得できるよう遂行している。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議の開催時には、数人の利用者が出席しているが、意見、不満、苦情を表現出来ていない	○	・介護相談員の方に訪問して頂き利用者の話を聞いてもらっている
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・家族の面会時必ず、利用者のグループホームでの生活、健康状態心身の変化等説明行っている。体調優れない状態が続く場合、家族に電話連絡し報告おこなっている。	○	・利用者の金銭管理昨年から行っているが、個々に合わせた報告を行っていないので行いたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議で、意見や改善して欲しい点、不満等を表せる機会を設けている。	○	・玄関に意見箱を設置している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議等で出た意見、提案等改善可能なものは、柔軟に対応し職員の意見が反映しやすい環境作りに努めている。	○	・なるべく迅速な対応に取り組んでいきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・利用者に十分目が届くよう、忙しい時間帯に職員が配置されるよう努めている。	○	・地域の行事等に参加する時など、その時間帯に手厚く職員が配置されるようにしている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・1ユニットのため事業所での移動はない。 ・職員の離職等最小限になるよう職員が働きやすい環境作りに努めている。	○	・職員や臨時職員を十分に確保し、職員が業務負担を感じることなく、利用者へ質の高いケアが出来るよう努めている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・経験年数等考慮しながら、研修参加の機会を確保している	○	・受講したい研修があれば、勤務に支障がない限り、制限なく参加できる
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・特に実施していない	○	・今後、他のグループホームとの交流を検討していきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・年に2～3回親睦会を開催している。	○	・仕事上の悩みは職員会議等で話を聞くようにしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・利用者に対する言葉掛けや接し方等見ながら、職員の日々の努力や実績を把握に努めている。	○	・受講したい研修、ケアマネージャー等の資格を取得を呼びかけ、向上心を持てるように努めている。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談から入所に至るまで、利用者がどんな生活を望んでいるのか、どんなことに不安を待っているのか、ゆっくり話をする機会を設けるよう努めている。	○	・居室訪問を行って環境作りに取り組んでいる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談から利用に至るまで家族とゆっくり話をしどのような要望、希望を持っているのか、聞く機会を設けるよう努めている。	○	・家族と挨拶だけでなく、利用者の近況などを話、見えない不安や意見交換できる環境作りに取り組んでいる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談があった場合は、利用者心身の状態、相談者の困っていることを把握し、本人と家族が今必要とするサービスが受けられるよう支援している	○	・等ホームが満所の場合、他施設の紹介等行う。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならないうちに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・今まで、徐々ににホームの雰囲気に慣れ親しめるような段階的な支援は行っていない。	○	・今後、入所前には徐々にホームの雰囲気に慣れるよう、何度かホームに遊びに来てもらい、他の利用者や職員と顔なじみの関係が出来てから入所というように、家族とも相談しながら段階的にサービスを開始していく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりが主役になれる場、機会を提供し、喜怒哀楽を自由に表現できる暮らしが送れるよう支援している。	○	・職員は、利用者から、生活の知恵、昔の慣わし、物を大切にすること、方言等生活を共にしていると色々なことを学んでいる。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・面会の際は利用者の日頃の様子、良いこと悪いこと楽しいこと、ともに笑ったこと全て含めて話す機会を持ち、そうすることで家族から利用者の昔の話等聞ける機会が出来、喜怒哀楽を共有できる。 ・家族に協力してもらえることは、協力がもらえる関係作りに努めている。	○	・面会に見えない家族に対してもホームでの様子をもっと知らせよう取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・利用者と家族の関係把握に努めより良い関係が築けるよう支援している	○	・ホームで地域の行事等に参加するときは、家族に参加呼びかけ、利用者と一緒に過ごす機会を設けている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人知人等の面会ある場合は、居室でゆっくり過ごしてもらい、気軽に遊びに来れる雰囲気作りに努めている	○	・明るいホームの環境作りに取り組みたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の人間関係を日ごろの様子より正確に把握し、人と交わる事が苦手な利用者にはレク等参加促し、職員が上手く仲介役となり他の利用者とコミュニケーションがとれるよう努めている。	○	下膳できない利用者のお膳を出来る方が手伝って下さる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・サービス利用終了後、継続的な関わりを必要としたケースは、今の所ないが、必要な場合は行っている。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・職員一人ひとりが利用者の毎日の暮らしぶりから、意向の把握に努めている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際家族、本人より話を聞く。ホームでの生活のなかで本人から話を自然と引き出す。又家族の面会ある時に情報を得るよう努めている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員一人ひとりが利用者の心身状態、能力等見極めケアを行っており、変化等ある場合、意見を出し情報の共有が出来るよう努めている	○	・利用者の持っている能力を的確に把握してできる事は、自分で行ってもらうよう働く掛けている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族を交えての話し合いは行っていない。介護計画を立てた後で家族または利用者に説明を行い同意を得ている。	○	介護計画を立てる前に、家族又は利用者に、ホームにどのような事を望むか、ホームでどのような生活を送りたいか話を聞いている。介護計画に同意得られない場合、即座に介護計画の立てなおし行う。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	おおむね三ヶ月に一回介護計画の見直しを行い、利用者の心身の状態の変化見られる場合は、その都度介護計画の見直しを行っている。	○	・臨機応変な対応をしていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士情報を共有できるように、毎日利用者の一日の様子を記録し、介護計画の作成や見直しに活かしている	○	・細かなことも見落とすことなくつけ
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・柔軟な対応、支援行っている	○	・家族が自由に利用者の部屋に宿泊できる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・利用者の意向や必要性に応じて地域資源を活用しながら、地域の中に密着した生活ができるよう努めている。	○	・誕生会等ボランティアに来ていただいている。 ・エスケープ等の場合に備えて、近くの交番に協力をお願いしている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・利用者、職員が、地域交流できる機会を見出し、地域の人々と交流する事が出来るよう努めている家族が他のサービス活用を望む場合は他のサービス事業所と十分話し合い、望むサービスが受けられるよう支援している	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・特に地域包括支援センターとの共働はしていない。	○	・必要があれば連携を取っていききたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所する際本人あるいは家族が望むかかりつけ医をきちんと把握しておく。	○	ホームに併設している病院を希望される場合、2週間に一度、主治医の診察を受ける

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・分からない事、困りごとがある場合、併設する病院の医師に、気軽に相談でき、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられる環境がある	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・併設している病院の看護師に気軽に相談できる環境にあり、利用者の健康管理、医療活用の支援をしている。	○	・利用者が怪我等した場合、迅速に治療や処置が受けられる。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・利用者が入院した場合、病院関係者や家族より、利用者の病状や心身の状態等の情報もらい、早期退院に対応できるように努めている。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・事業所の方針として重度な方や終末期の方を最後の看取りまで行わないも、入所の段階で説明と同意をえており、状態等悪化した場合の話も主治医を含め家族と話をする機会を作っている。	○	・最後の看取りまでは現在行っていないが、入所の段階で、主治医を含め説明と同意を得ており、状態悪化した場合も、併設病院にて迅速に対応している。また、本人、家族の望まれる病院や施設等に等へ行ける様な環境作りをしている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・事業所の方針として重度な方や終末期の方を対象としていないが、利用者のADLや認知の状態に変化見られる場合、家族の意向を含め、主治医や職員で検討行う。	○	・家族、職員、主治医と十分話し合い本人にとって一番いい方法がとれるような取り組みをしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・入退所前には家族、本人とも十分に話し合いを行い、関係機関とも十分な情報交換を行っている。	○	・今までの環境を変えないように取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者一人ひとりの生きてきた背景、個性、性格等に配慮した言葉掛けを行っている。	○	・起床、食事、入浴、レクリエーション等の参加の声掛けは行うが、拒否ある場合は、利用者の意思に任せる。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・利用者とかかわる時間を多く持ち、言いたいこと、要望を聞き、利用者の希望に沿った生活が送れるよう支援している。	○	・食事の時座る席は基本的に自由席なので、自分で好きな席に座ってもらっている。 ・お茶や食事の時間は職員も一緒に椅子に座り、ゆっくり話をする時間を設けてある。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ホームの一日の流れ(起床、食事、入浴等)は一応決まっているが利用者のペースに合わせて希望に沿った生活が送れるよう支援している。	○	・起床、食事、入浴、レクリエーション等の参加の声掛けは行うが、拒否ある場合は、利用者の意思に任せる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・定期的に近くの美容室に出かける。理容、美容室の指定がある場合は、家族の協力をもらい希望する所へ出かけている。	○	・グループホームが利用している美容室は、認知症のことよく理解して下さっており、利用者を預けて、終わったら連絡を下さる。利用者もいつもと違う雰囲気、地域住民の人達との交流を楽しんでいる。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の準備が可能な利用者には一緒に準備を行っている。下膳は、足腰が弱い利用者以外は、自分で下膳する習慣がついている。	○	・利用者の心身の状態、健康状態に合わせて食器の大きさや、食材大きさに配慮し安全で楽しい食事出来るよう支援している。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・利用者が望む物がある場合、職員と一緒に買い物に出かける。タバコは火災のことを考え禁煙にしている。 ・飲酒は適量であれば可	○	・希望ある利用者のみ買い物に出かけている機会が多いので、訴えない利用者に対しても定期的に買い物の支援を行っていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・食事、レク、お茶等の前後には必ずトイレ声掛け、誘導を行い、排泄の失敗が減少するよう努めている。	○	・尿意、便意の訴えのない利用者に対し、排泄チェック表でチェックし、排泄の間隔を職員間で把握し失禁をなくすよう心がけている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴の曜日や時間帯等一応決まっているが、利用者の好みの温度や時間(入浴の長さ)は、体調の状態に注意しながら、本人の希望を重視し、利用者のペースで入浴を楽しんでもらっている。	○	・各居室に浴室があり、一人でくつろいだ入浴が出来き、プライバシーに配慮した入浴が行える。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・グループホームの一日のおおまかな流れにあわせ利用者には声掛け行っているが、利用者が休息したい時は、本人の意思を重視している。	○	・起床の時間、食事の時に、利用者が休息をしたい場合、食事の時間をずらし後からとってもらおう等の配慮している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・生活の中で、できる事はしてもらい役割を持ってもらっている	○	・食事の配膳や下膳、花の水やり、自室の掃除等職員と一緒にやっている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理の可能な利用者は、お金を所持し買い物希望があれば職員と一緒に出かけ、お小遣い帳と一緒に記入し残金の確認を行っている。 ・金銭管理の困難な利用者は職員が管理している。	○	・お小遣いを家族から預かっていても、購買意欲の見られない利用者や訴えの少ない利用者がほとんどなので、その方たちの買い物支援に力を入れたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・定期的に散歩に出かけたり、外に出たいと訴えある場合その都度出かけ気分転換やストレスが発散できるよう支援している。	○	・買い物の希望ある時はその都度出かけたり、2ヶ月に1回ほど、近く美容室の出かけたりしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・全利用者で、車を使用し、公園までピクニックに出掛けたり、している。	○	・家族と約1ヶ月に一回程度、外食に出掛けたり、家族と行きつけの美容室にパーマを掛けに出かけたり、墓参りに行ったりされる利用者が数人おられる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者が自ら電話をすることはないが、家族等への電話希望ある場合は行っている。家族からかかってきた場合は居室でゆっくり話せるよう支援している。	○	・年賀状、暑中見舞いを投函している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・笑顔での挨拶心がけ、気軽に訪問できる雰囲気作りに心掛けている。	○	・利用者や訪問者が、明るく、落ち着いて過ごせる環境づくりに努めたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員は身体拘束の研修を受け、身体拘束を行ってはいけないことを理解している。	○	・全職員身体拘束の研修を受け、身体拘束をしない介護に今後もと取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・居室には鍵は設置していないが、建物の構造上、玄関が死角になり、玄関には鍵をかけている。	○	・職員の数や、利用者が精神的に落ち着いている場合は、少しでも鍵をかけない時間を作っていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員は常に利用者が安全に生活できているか、気を配り、自室で過ごす時間が長い利用者には、定期的に訪室し声掛け安否の確認を行っている。	○	・入室前には必ず、ノックと声掛けを行い、プライバシーに配慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・自己管理できる利用者は、自分で行ってもらい、自己管理が困難な利用者は、家族と相談しながら、職員が管理保管を行っている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・研修を受けたり、全職員が消火器の使用方を理解して事故防止に努めている。	○	・転倒は事故報告を行い、再発防止に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・急変時、急変は併設する病院の医師、看護師に指示を仰いでいる。	○	・応急手当や初期対応の訓練等特に行っていないので、マニュアル等作成し実行していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・自主避難訓練を行っている。	○	・災害時のときの為に、2日程度の水、食料の備蓄を行っている ・今後、地域の人々の協力が得られるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	・健康状態、病状から見たリスクや、ADLの状態からみた起こりうる危険について家族に説明し、利用者が安全に快適に生活できるよう支援している。	○	・家族と十分に話あいの場を設けたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・職員は、日々の利用者の変化を見逃さないように、また食事の摂取量や排泄の記録からも変化の把握に努めている。	○	・利用者に少しでも体調の変化や異変感じ取られる時は、日誌、ケース記録、申し送りに記載し、職員間で情報が共有できるようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は)利用者が服薬している薬について理解しており、症状の変化確認に努めている。	○	・症状等に変化ある場合すぐに主治医に相談できる環境がある。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・水分補給を十分に行い、また献立に工夫したりしている ・心身を動かす働きかけ等の支援を行っている。	○	・麦ご飯、牛乳、ヨーグルト、芋類を取り入れ便秘予防に努めている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、うがい、義歯の洗浄を行い口腔内の清潔保持に努めている。	○	・うがいには、お茶は使用している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢、活動状況、体重の増減等見ながら摂取量を調整している。水分は必ず毎食事、おやつの際湯のみで2杯から3杯飲水。	○	・お茶をあまり飲まない利用者にはコーヒーやスポーツ飲料水などで対応し水分補給に気をつけている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染に対するマニュアルを作成し実行している。	○	・マニュアルを職員に配布している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等使用する前に、熱湯消毒して使用している。食材の買い物は火曜日と金曜日に行き新鮮なものを使用している。	○	魚や魚介類は買い物に行った日に調理し新鮮なうちに食べて頂いている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関や建物周辺に季節の花を植え親しみやすい雰囲気作りに努めている	○	・歩行を妨げないよう、玄関周りをを明るくする環境作りに取り組みたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間は利用者にとって過ごしやすいよう不快のないよう、心掛けています。	○	・時季の草花を飾ったり、月々に応じた壁画を利用者と一緒に作成し季節感が感じられるようにしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・1階、2階にソファを置き、利用者同士で過ごせる空間がある。	○	・ソファに2, 3人で腰掛け談話している姿が時折見られる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・危険のない範囲で、使いなれた寝具や生活用品を自由に持ち込んでもらい、安心して過ごせるようにしている	○	・テレビ、椅子、使い慣れた布団、ベッド等慣れ親しんだ物を使用してもらっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・居室の浴室は常に換気扇をつけ、不快なおいがこもらないようにして。部屋の換気はこまめに行っている。 ・気温調節は職員が空調設備の調節行っている。	○	・常に快適な温度に心掛けてある。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者が身体機能をいかして安全に自立した生活が出来るよう工夫している。	○	・居室の畳とフローアの段差解消や、身体機能の状態により手すりを設置している
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・利用者一人ひとりの、理解力や出来ること出来ないこと正確に把握し、できる事をしてもらい、自信回復と自立した生活が送れるよう支援している	○	・部屋に名前掲げたり、色画用紙で作った果物を貼り、利用者が分かりやすいようにしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・建物の構造上ベランダ等ないが、花の世話、草取り、水まき等出来るようにプランターや花鉢を使って園芸を楽しめるようにしている。	○	・ホームで植えた花を地域のバス停や公民館、いつも利用している美容室においてもらうよう計画している。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)